

野球殿堂博物館で企画展 「ベースボールがやってきた」 人気と魅力の源流たどる

野球が日本に伝わってから来年でちょうど150年を迎えるのを記念した企画展「第1期1872-1945ベースボールがやってきた」が東京ドームにある野球殿堂博物館（東京都文京区）で開かれています。いまや「国民スポーツ」として定着し不動の人気を誇る野球。ベースボールとして伝来した1872（明治5）年から、戦争の惨禍を乗り越えて復活する1945（昭和20）年までの軌跡を振り返りながら、その魅力に思いを馳せてみては――

■来日したベーブ・ルースのバット

展示物でまず目につくのは1934（昭和9）年の日米野球で、大リーグ選抜の一員として来日したベーブ・ルースが使用したバットです。ルースといえば、大谷翔平選手（エンゼルス）が挑み注目を集めた「同一シーズン2桁勝利&2桁本塁打」を103年前に達成したスーパースターです。

会場には、ルースの似顔絵が描かれた日米野球のポスターも掲示されています。ルースは当初は来日を渋っていましたが、渡米した主催者側がこのポスターを見せ、日本のファンが待ちわびていることを伝えたところ、来日を承諾したというエピソードが残っています。日米野球の試合や練習の様子を視聴できるコーナーもあります。

■3連覇のエースが着用したユニホーム

野球が伝わって間もない明治時代に使われていたグラブやバットも展示されています。当初は素手でプレーしていましたが、ボールのスピードが速くなるにつれ手を保護するものが必要となり、グラブが登場したということです。

このほか、全国中等学校優勝野球大会（現在の夏の甲子園大会）の第17回大会＝31（昭和6）年＝から前人未だの3連覇を果たした中京商業のエース吉田正男が着用したユニホームも目を引きます。中京商業といえば、明石中との延長二十五回の熱闘が語り草となっています。

■ゴム靴から誕生した軟式ボール

企画展は「一高黄金時代」「学生野球の父」「野球害毒論」など野球にまつわる50のキーワードで紹介しています。「軟式ボールの発明」では、小学生向けのボールの研究開発に取り組んでいた文房具商が、ゴム靴裏の滑り止めからヒントを得て、ゴムボールに靴底を張り付けたボールを試作。



試行錯誤の末、ゴム製の少年野球用ボールを考案し、後の軟式ボールにつながったことが紹介されています。普段、軟式野球に親しむ人にとっても興味深い話と言えるでしょう。企画展は12月9日まで開かれています。

メモ 会場 野球殿堂博物館企画展示室▽入場料 大人600円、65歳以上・高・大学生400円、小・中学生200円▽開館時間 平日13時～17時、土・日・祝10時～17時※東京ドームでの野球開催日は18時閉館▽休館日 月曜（祝日、東京ドームでの野球開催日、春・夏休み中は開館）